

5課

夜空の星のように輝く

1月 31日

安息日午後

1月 24日

暗証聖句

すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中にあって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持つて、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。(ピリピ 2:14、15、口語訳)

何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい。そうすれば、とがめられるところのない清い者となり、よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあって星のように輝き、(フィリピ 2:14、15、新共同訳)

今週の聖句

フィリピ(ピリピ) 2:12~30、ローマ 3:23、24、ローマ 5:5、Ⅱテモテ 4:6、
Ⅰコリント 4:17、Ⅱテモテ 4:13、21、ルカ 7:2

今週のテーマ

神はヘブライ(ハブル)人に、[掟に]従いなさいと言われました。「そうすれば、諸國の民にあなたたちの知恵と良識が示され、彼らがこれらすべての掟を聞くとき、『この大いなる国民は確かに知恵があり、賢明な民である』と言う」〔口語訳「これは、もろもろの民にあなたがたの知恵、また知識を示す事である。彼らは、このもろもろの定めを聞いて、『この大いなる国民は、まことに知恵あり、知識ある民である』と言う」〕(申4:6)からです。

数世紀後、イエスはこう言われました。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」〔口語訳「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」〕(ヨハ8:12)、「あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない」〔口語訳「あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れことができない」〕(マタ5:14)。どうすれば私たちは、その光になれるのでしょうか。それは、「すべての人を照すまことの光」(ヨハ1:9、口語訳)であるイエスとの親密な交わりを通してのみ可能です。フィリピ(ピリピ)2:9~11にあるように、「神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものすべてが、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父で

ある神をたたえるのです」〔口語訳「神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるもののがひざをかがめ、また、あらゆる舌が、『イエス・キリストは主である』と告白して、栄光を父なる神に帰するためである〕

天の光と力は、イエスに人生をささげた人に与えられます。そのため、パウロがフィリピ(ピリピ)の人々に語った言葉は、今日においても非常に大切です。

【参考】3段落目の英文を記載します。(赤字が日本語訳でカットされた文)

The light and power of heaven is available to all of us who have surrendered our lives to Jesus. **But too often either we expect God to do it all or our own ideas and plans get in the way.** That's why Paul's words to the Philippians are so relevant today.

直訳:天の光と力は、イエスに人生をささげた(ゆだねた)私たちすべてに与えられます。しかし、私たちは神がすべてをしてくださると期待したり、自分の考えや計画が妨げとなったりすることがあまりにも多いのです。だからこそ、パウロがフィリピ(ピリピ)の人々に語った言葉は、今日においても非常に重要な意味を持つのです。

32

申4:6 (新共同訳)

4:6 あなたたちはそれを忠実に守りなさい。そうすれば、諸国の民にあなたたちの知恵と良識が示され、彼らがこれらすべての掟を聞くとき、「この大いなる国民は確かに知恵があり、賢明な民である」と言うであろう。

ヨハ 8:12 (新共同訳)

8:12 イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」

マタ 5:14 (新共同訳)

5:14 あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。

ヨハ 1:9 (新共同訳)

1:9 その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。

フィリ 2:9～11 (新共同訳)

2:9 このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

2:10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、

2:11 すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

申4:6 (口語訳)

4:6 あなたがたは、これを守って行わなければならない。これは、もちろんの民にあなたがたの知恵、また知識を示す事である。彼らは、このもちろんの定めを聞いて、『この大いなる国民は、まことに知恵あり、知識ある民である』と言うであろう。

ヨハ 8:12 (口語訳)

8:12 イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」

マタ 5:14 (口語訳)

5:14 あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。

ヨハ 1:9 (口語訳)

1:9 すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。

ピリ 2:9～11 (口語訳)

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるもののがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

日曜日 1月 25 日 神が私たちの内に働くことを行う [フィリピ2:13 参照]

謙遜と、神の御心に従順であることの完全な模範としてイエスを示したあと、パウロはすぐにフィリピ(ピリピ)の信徒自身に目を向けています。パウロは、彼らが福音のメッセージを受けたあと、主に従順であったことを認めたうえで(使徒16:13~15、32、33参照)、その従順さを保つよう、彼らに勧めています。

救いの道としてキリストの生涯と十字架の模範を示したパウロは、次に、これらすべてが実際にどのように機能するかについて、より直接的に焦点を当てています。

問1 フィリピ(ピリピ)2:12、13を読んでください。パウロはどういう意味で、「自分の救いを達成するように」[口語訳「自分の救の達成(しなさい)」]と言ったのでしょうか。信仰と行いの関係を、あなたはどう説明しますか。

この箇所で、パウロは、ローマの信徒への手紙(ローマ人への手紙)などの書簡で述べていることと違う福音を提示しているわけではありません。ここでの彼のメッセージが、フィリピ(ピリピ)やほかの場所でも説かれた信仰による義認の福音と一致していることは、間違いません。しかし特定のトピック、特に誤解されやすい救いの主題について、聖書が述べているあらゆることを考慮することも重要です。

問2 ローマ3:23、24、5:8、エフェソ(エペソ)2:8~10を読んでください。これらの箇所は、救いについて何と教えていますか。

疑いなく、救いは神の御業であり、私たちはそれを自分の手柄にすることはできません。信仰そのものも賜物であり、聖霊の働きによって強められるものです。私たち自身の行いは、私たちを救うことができません。しかし、新生を通して、神は私たちを靈的に再創造し、私たちが良い業を行えるようにしてくださいます。神の靈は私たちの内に働き、私たちの意志を力づけて、正しいことを選び、誘惑に抵抗し、正しい選択ができるようにしてくださるのです。

このように、私たちは、神が私たちの内に働くことを「恐れおののきつつ」[口語訳「恐れおののいて」](フィリピ2:12)行うのです。これは、従順であろうとする私たちの努力がしばしば足りないことに対する神の裁きを恐れるべきだという意味でしょうか。もちろん違います。この聖句は、神の臨在を感じ(詩編[詩篇]2:11参照)ながら神に従う必要があると述べているのです。

【参考】英語テキストにある文

In what ways have you experienced Christ working in you? How, though, does your fallen nature fight against what God is doing in you, and how can you resist that pull?

キリストがあなたの内で働くことを、どのような形で経験してきましたか。しかし、あなたの堕落した性質は、神があなたの内でなさいていることとどのように戦い、その引き付ける力にどう抗うことができるのでしょうか。

33

使徒 16:13～15 （新共同訳）

16:13 安息日に町の門を出て、祈りの場所があると思われる川岸に行った。そして、わたしたちもそこに座って、集まっていた婦人たちに話をした。

16:14 ティアティラ市出身の紫布を商人で、神をあがめるリディアという婦人も話を聞いていたが、主が彼女の心を開かれたので、彼女はパウロの話を注意深く聞いた。

16:15 そして、彼女も家族の者も洗礼を受けたが、そのとき、「私が主を信じる者だとお思いでしたら、どうぞ、私の家に来てお泊まりください」と言ってわたしたちを招待し、無理に承知させた。

使徒 16:32、33 （新共同訳）

16:32 そして、看守とその家の人们に主の言葉を語った。

16:33 まだ真夜中であったが、看守は二人を連れて行って打ち傷を洗ってやり、自分も家族の者も皆すぐに洗礼を受けた。

フィリ 2:12、13 （新共同訳）

2:12 だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。

2:13 あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。

ロマ 3:23、24 （新共同訳）

3:23 人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、

3:24 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

ロマ 5:8 （新共同訳）

5:8 しかし、わたしたちがまだ罪人であ

使徒 16:13～15 （口語訳）

16:13 ある安息日に、わたしたちは町の門を出て、祈り場があると思って、川のほとりに行った。そして、そこにすわり、集まってきた婦人たちに話をした。

16:14 ところが、テアテラ市の紫布の商人で、神を敬うルデヤという婦人が聞いていた。主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに耳を傾けさせた。

16:15 そして、この婦人もその家族も、共にバプテスマを受けたが、その時、彼女は「もし、わたしを主を信じる者とお思いでしたら、どうぞ、わたしの家にきて泊まって下さい」と懇望し、しいてわたしたちをつれて行った。

使徒 16:32、33 （口語訳）

16:32 それから、彼とその家族一同とに、神の言を語って聞かせた。

16:33 彼は真夜中にもかかわらず、ふたりを引き取って、その打ち傷を洗ってやった。そして、その場で自分も家族も、ひとり残らずバプテスマを受け、

ピリ 2:12、13 （口語訳）

2:12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそ従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。

2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。

ロマ 3:23、24 （口語訳）

3:23 すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっていますが、

3:24 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによつて義とされるのである。

ロマ 5:8 （口語訳）

5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたし

ったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

エフェ 2:8～10 (新共同訳)

2:8 事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

2:9 行いによるのではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。

2:10 なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。

詩 2:11 (新共同訳)

2:11 畏れ敬って、主に仕え/おののきつ、喜び躍れ。

たちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

エペ 2:8～10 (口語訳)

2:8 あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。

2:9 決して行きによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。

2:10 わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。

詩 2:11 (口語訳)

2:11 恐れをもって主に仕え、おののきをもって

月曜日 1月 26 日 暗い世にある星 (フィリピ[ピリ]2:15、参照)

フィリピ(ピリ)2:14でパウロは、「何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい」[口語訳「すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい」と]とフィリピ(ピリ)の信徒に勧めています。教会の一致に対する挑戦[challenge 課題]は、非常に深刻なものであり、私たちの側でかなりの努力をしなければ、それを維持できません。教会内の一致は、キリストと一緒に、御言葉に従うことから生じる実です。そしてそれは、「世にあって星のように輝き(なさい)」[口語訳「星のようにこの世に輝いて」](フィリピ[ピリ]2:15)とパウロが呼びかけているように、私たちの証しにとって不可欠です。

月のない夜、町の光や街灯のまぶしさから離れると、より多くの星が見え、その星がより明るく輝いているように感じます。この違いを生んでいるのは、対比です。夜空が暗ければ暗いほど、星は一層はっきりと目立ちます。それは私たちの証しでも同じです。私たちの周りの道徳的闇が深ければ深いほど、神に従う真の信者の生き方と世俗の人々の生き方との対比は、一層際立ちます。ですから、世俗的な考え方、圧力、慣習といった人工的な光によって、私たちの証しが目立たなくなったり、完全に消えたりしないようにすることは、なんと重要なことでしょう。

問3 フィリピ(ピリ) 2:15、16 を読んでください。パウロは、神の子として私たちがどうあるべきか、何をすべきかを、どう説明していますか。

「とがめられるところのない」〔口語訳「責められるところのない」〕とは、「欠点がなく、非難されるところがない」という意味です。この言葉は、ヨブと彼の無垢な性格を説明するために使われています(ヨブ1:1、8、2:3参照)〔英語テキストには、ヨブ11:4、33:9も参照とあります〕。「とがめられるところのない(責められるところのない)」または「無垢」〔口語訳「全く」〕と訳されているギリシア語の文字どおりの意味は、「混じりけのない、純粋な」です。イエスは、ご自分の証し人たちが受けるであろう悪質な攻撃を見越して、「鳩のように素直になりなさい」〔口語訳「はどのように素直であれ」〕(マタ10:16)と勧めておられます。パウロもまた、「悪には疎くある」〔口語訳「悪には、うとくあ(る)」〕(ロマ16:19)ようにと勧めています。現代のメディアは、純粋で、気持ちを高揚させ、鼓舞するような内容で知られているわけではありません。このような時代には、「卑しいことを目の前に置かず」〔口語訳「わたしは目の前に卑しい事を置きません」〕(詩編〔詩篇〕101:3)という、ダビデの生き方が私たちにとって良い指針となります。

私たちは、人と異なることを恐れてはいけません。信仰が、一層私たちを世から際立たせるはずです。目標は、「世にあって星のように輝(く)」〔口語訳「星のようにこの世に輝(く)」〕(フィリ〔ピリ〕2:15)ことであり、それを実現する唯一の方法は、「命の言葉をしっかりと保つ」(同2:16)〔口語訳「このようにして(=いのちの言葉を堅く持(つ)、同2:15参照)」〕ことで、この世に傲わない(妥協しない)ことです(ロマ12:2)。私たちの選択が、「キリストの日」を視野に入れて生きてきたか、それとも「やみくもに走つ(て)」〔口語訳「目標のはっきりしないような走り(をして)」〕(フィリ〔ピリ〕2:16、Iコリ9:24~27と比較)きたのかを決定づけるのです。

【参考】英語テキストにある文

If there are areas of your life that you would consider “worldly” (and there probably are), how can you be cleansed from them?

もし、あなたの人生の中に「世俗的」だとみなせる領域があるとしたら(おそらくあるでしょう)、どうすればそこから清められるのでしょうか。

フィリ 2:14~16 (新共同訳)
2:14 何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい。
2:15 そうすれば、とがめられるところのない清い者となり、よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあって星のように輝き、

2:16 命の言葉をしっかりと保つでしょう。こうしてわたしは、自分が走ったことが無駄でなく、労苦したことも無駄ではな

ピリ 2:14~16 (口語訳)

2:14 すべてのことを、つぶやかず疑わないで下さい。
2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中にあって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持つて、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

2:16 このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走ったことがむだでなく、労したことでもむだではなかったと誇

かったと、キリストの日に誇ることができるでしょう。

ヨブ 1:1、8（新共同訳）

1:1 ウツの地にヨブという人がいた。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた。

1:8 主はサタンに言われた。「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きている。」

ヨブ 2:3（新共同訳）

2:3 主はサタンに言われた。「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きている。お前は理由もなく、わたしを唆して彼を破滅させようとしたが、彼はどこまでも無垢だ。」

ヨブ 11:4（新共同訳）

11:4 あなたは言う。「わたしの主張は正しい。あなたの目にもわたしは潔白なはずだ」と。

ヨブ 33:9（新共同訳）

33:9 「わたしは潔白で、罪を犯していない。わたしは清く、とがめられる理由はない。」

マタ 10:16（新共同訳）

10:16 「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。」

ロマ 16:19（新共同訳）

16:19 あなたがたの従順は皆に知られています。だから、わたしはあなたがたのことを喜んでいます。なおその上、善にさとく、悪には疎くあることを望みます。

詩 101:3（新共同訳）

101:3 卑しいことを目の前に置かず/背く者の行いを憎み/まつわりつくことを許さず

ロマ 12:2（新共同訳）

12:2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるように

ることができる。

ヨブ 1:1、8（口語訳）

1:1 ウツの地にヨブという名の人があつた。そのひととなりは全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかった。

1:8 主はサタンに言われた、「あなたはわたしのしもべヨブのように全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかる者の世にないことを気づいたか。」

ヨブ 2:3（口語訳）

2:3 主はサタンに言われた、「あなたは、わたしのしもべヨブのように全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかる者の世にないことを気づいたか。あなたは、わたしを勧めて、ゆえなく彼を滅ぼそうとしたが、彼はなお堅く保って、おのれを全うした。」

ヨブ 11:4（口語訳）

11:4 あなたは言う、『わたしの教は正しい、わたしは神の目に潔い』と。

ヨブ 33:9（口語訳）

33:9 あなたは言う、『わたしはいさぎよく、とがはない。わたしは清く、不義はない。』

マタ 10:16（口語訳）

10:16 わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおおかみの中に送るようなものである。だから、へびのように賢く、はとのように素直であれ。

ロマ 16:19（口語訳）

16:19 あなたがたの従順は、すべての人々の耳に達しており、それをあなたがたのために喜んでいる。しかし、わたしの願うところは、あなたがたが善にさとく、悪には、うとくあってほしいことである。

詩 101:3（口語訳）

101:3 わたしは目の前に卑しい事を置きません。わたしはそむく者の行いを憎みます。それはわたしに付きまといません。

ロマ 12:2（口語訳）

12:2 あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知る

なりなさい。

I コリ 9:24～27 (新共同訳)

9:24 あなたがたは知らないのですか。競技場で走る者は皆走るけれども、賞を受けるのは一人だけです。あなたがたも賞を得るように走りなさい。

9:25 競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、わたしたちは、朽ちない冠を得るために節制するのです。

9:26 だから、わたしとしては、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。

9:27 むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです。

べきである。

I コリ 9:24～27 (口語訳)

9:24 あなたがたは知らないのか。競技場で走る者は、みな走りはするが、賞を得る者はひとりだけである。あなたがたも、賞を得るように走りなさい。

9:25 しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。

9:26 そこで、わたしは目標のはっきりしないような走り方をせず、空を打つような拳闘はしない。

9:27 すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。

火曜日 1月 27 日 生けるいけにえ (口語訳:生きた供え物、ロマ12:1参照)

問4 フィリピ (ピリピ) 2:17、IIテモテ 4:6、ローマ 12:1、2、Iコリント 11:1 を読んでください。これらの箇所で、パウロは何と述べていますか。

パウロは、キリストに仕えて生きるか死ぬかについて、意外にも曖昧な見解をすでに表明していました(フィリ [ピリ] 1:20～23)。が、ここでのパウロは、「私が供え物として注がれる」(同2:17、協会共同訳)[“I am being poured out as a drink offering”、NKJV(直訳「私が液体/飲み物の供え物として注がれる」)]という非常に現実的な可能性を示唆しています。このたとえは、神への献げ物(供え物)として液体(油、ぶどう酒、水など)を注ぐ古代の習慣に基づいています(例えば、創35:14、出29:40、サム下23:15～17参照)。献身の行為において貴重な液体を「無駄にする」ことは、マリアがイエスの頭と足に「非常に高価なナルドの香油」[口語訳「非常に高価で純粋なナルドの香油」](マコ14:3～9、ヨハ12:3)を塗った行為を思い起こさせるかもしれません。それ自体は飲み物の献げ物(供え物)ではありませんが、私たちの救いのためのキリストの無限の犠牲を明確に示すにふさわしい、大きな犠牲をあらわしていました。

パウロは、福音を広める働きのために処刑されたとしても、喜んだことでしょう。彼の命が神への献げ物(供え物)として「注がれ(た)」からです。ヘブライ(ヘブル)語聖書において、ぶどう酒の献げ物(ささげもの)は一般的に単独で行われるのではなく、いけにえを伴っています(民15:1～10、28:1～15参照)。ですからパウロは、自分の命をささげることが、信仰によって「生けるいけにえ」[口語訳「生きた……供え物」]

(ロマ12:1)として人生を神にささげることを選んだフィリピ(ピリピ)の信者たちの「犠牲と奉仕」を補うものとして、ふさわしいと考えたでしょう。

フィリピ(ピリピ)の信徒(フィリ[ピリ]1:27~29)を含む初期のクリスチャンは、信仰を伝えることに積極的でした。彼らは家から家へと福音を広めていきました(使徒5:42)。彼らは聖書研究のために自宅を開放し(同12:12、Iコリ16:19、コロ4:15、フィレ[ピレ]1、2)、自分たちが信じていることの理由を聖書から説明することができました(使徒17:11、18:26、Iペト[ペテ]3:15)。私たちアドベンチストの先駆者たちも同じでした。牧師に頼って隣人にメッセージを広めるのではなく、彼ら自身が信仰を分かち合い、聖書研究をし、牧師が戻って来たときに入々がバプテスマを受けられるように準備しました。

要するに、彼らは自ら大きな犠牲を払い、つまり「生けるいけにえ(生きた供え物)」として、福音を広めるために働いたのです。私たちも同様に犠牲を払う必要があるのではないかでしょうか。

あなたの人生が「生けるいけにえ」(生きた供え物)になるとは、どういうことか、考えてみてください。あなたは神の国のために、どれほど犠牲を払っていますか。

35

フィリ2:17 (新共同訳)

2:17 更に、信仰に基づいてあなたがたがいけにえを献げ、礼拝を行う際に、たとえわたしの血が注がれるとしても、わたしは喜びます。あなたがた一同と共に喜びます。

フィリ2:17 (協会共同訳)

2:17 さらに、たとえ、あなたがたの信仰のいけにえと奉仕の上に、私が供え物として注がれることになったとしても、私は喜びます。あなたがた一同と共に喜びます。

IIテモ4:6 (新共同訳)

4:6 わたし自身は、既にいけにえとして献げられています。世を去る時が近づきました。

ロマ12:1、2 (新共同訳)

12:1 こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。

12:2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、

ピリ2:17 (口語訳)

2:17 そして、たとい、あなたがたの信仰の供え物をささげる祭壇に、わたしの血をそそぐことがあっても、わたしは喜ぼう。あなたがた一同と共に喜ぼう。

Philippians 2:17 (NKJV)

2:17 Yes, and if I am being poured out as a drink offering on the sacrifice and service of your faith, I am glad and rejoice with you all.

IIテモ4:6 (口語訳)

4:6 わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時はきた。

ロマ12:1、2 (口語訳)

12:1 兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき靈的な礼拝である。

12:2 あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨

何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになります。

Iコリ 11:1 (新共同訳)

11:1わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

ピリ 1:20~23 (新共同訳)

1:20そして、どんなことにも恥をかかず、これまでのよう今も、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストが公然とあがめられるようにと切に願い、希望しています。

1:21わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。

1:22けれども、肉において生き続ければ、実り多い働きができ、どちらを選ぶべきか、わたしには分かりません。

1:23この二つのことの間で、板挟みの状態です。一方では、この世を去って、キリストと共にいたいと熱望しており、この方がはるかに望ましい。

創 35:14 (新共同訳)

35:14ヤコブは、神が自分と語られた場所に記念碑を立てた。それは石の柱で、彼はその上にぶどう酒を注ぎかけ、また油を注いだ。

出 29:40 (新共同訳)

29:40そして、朝さざげる雄羊には四分の一ヒンのオリーブを碎いて取った油を混ぜた十分の一エファの小麦粉と、四分の一ヒンのぶどう酒の獻げ物を加える。

サム下 23:15~17 (新共同訳)

23:15ダビデは、「ベツレヘムの城門の傍らにある、あの井戸の水を飲ませてくれる者があればよいのに」と切望した。

23:16三人の勇士はペリシテの陣を突破し、ベツレヘムの城門の傍らにある井戸から水をくみ、ダビデのもとに持ち帰った。ダビデはこの水を飲むことを望まず、注いで主にささげ、

であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

Iコリ 11:1 (口語訳)

11:1わたしがキリストにならう者であるように、あなたがたもわたしにならう者になりなさい。

ピリ 1:20~23 (口語訳)

1:20そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあっても恥じることなく、かえって、いつものよう今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。

1:21わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。

1:22しかし、肉体において生きていることが、わたしにとっては実り多い働きになるのだとすれば、どちらを選んだらよいか、わたしにはわからない。

1:23わたしは、これら二つのもの間に板ばさみになっている。わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方がはるかに望ましい。

創 35:14 (口語訳)

35:14そこでヤコブは神が自分と語られたその場所に、一本の石の柱を立て、その上に灌祭をささげ、また油を注いだ。

出 29:40 (口語訳)

29:40一頭の小羊には、つぶして取った油一ヒンの四分の一をませた麦粉十分の一エバを添え、また灌祭として、ぶどう酒一ヒンの四分の一を添えなければならぬ。

サム下 23:15~17 (口語訳)

23:15ダビデは、せつに望んで、「だれかベツレヘムの門のかたわらにある井戸の水をわたしに飲ませくれるとよいのだが」と言った。

23:16そこでその三人の勇士たちはペリシテびとの陣を突き通って、ベツレヘムの門のかたわらにある井戸の水を汲み取って、ダビデのもとに携えてきた。しかしダビデはそれを飲もうとはせず、主の前にそれを注いで、

23:17 こう言った。「主よ、わたしはこのようなことを決してすべきではありません。これは命をかけて行った者たちの血そのものです。」ダビデはその水を飲もうとしなかった。以上が三勇士の武勲である。

マコ 14:3～9 (新共同訳)

14:3 イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンの家にいて、食事の席に着いておられたとき、一人の女が、純粋で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた。

14:4 そこにいた人の何人かが、憤慨して互いに言った。「なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか。」

14:5 この香油は三百デナリオン以上に売って、貧しい人々に施すことができたのに。」そして、彼女を厳しくとがめた。

14:6 イエスは言われた。「するままにさせておきなさい。なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。」

14:7 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではない。

14:8 この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた。

14:9 はっきり言っておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

ヨハ 12:3 (新共同訳)

12:3 そのとき、マリアが純粋で非常に高価なナルドの香油を一リトラ持ってきて、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。

民 15:1～10 (新共同訳)

15:1 主はモーセに仰せになった。

15:2 イスラエルの人々に告げてこう言いなさい。わたしが与える土地にあなたたちが行って住むとき、

15:3 特別の誓願を果たすため、あるいは

23:17 言った、「主よ、わたしは断じて飲むことをいたしません。いのちをかけて行った人々の血を、どうしてわたしは飲むことができましょう」。こうして彼はそれを飲もうとはしなかった。三勇士はこれらのことを行った。

マコ 14:3～9 (口語訳)

14:3 イエスがベタニアで、重い皮膚病の人シモンの家にいて、食卓についておられたとき、ひとりの女が、非常に高価で純粋なナルドの香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、それをこわし、香油をイエスの頭に注ぎかけた。

14:4 すると、ある人々が憤って互に言った、「なんのために香油をこんなにむだにするのか。」

14:5 この香油を三百デナリ以上に売って、貧しい人たちに施すことができたのに。」そして女をきびしくとがめた。

14:6 するとイエスは言われた、「するままにさせておきなさい。なぜ女を困らせるのか。わたしによい事をしてくれたのだ。」

14:7 貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときにはいつでも、よい事をしてやれる。しかし、わたしはあなたがたといつも一緒にいるわけではない。

14:8 この女はできる限りの事をしたのだ。すなわち、わたしのからだに油を注いで、あらかじめ葬りの用意をしてくれたのである。

14:9 よく聞きなさい。全世界のどこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう。」

ヨハ 12:3 (口語訳)

12:3 その時、マリヤは高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。

民 15:1～10 (口語訳)

15:1 主はモーセに言われた、

15:2 「イスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたが、わたしの与えて住ませる地に行つて、

15:3 主に火祭をささげる時、すなわち特

随意の献げ物をささげるとき、または祝日に、牛もしくは羊の群れから取って焼き尽くす献げ物あるいは和解の献げ物とし、燃やして主にささげる宥めの香りとするときには、

15:4 奉納者は十分の一エファの上等の小麦粉に四分の一ヒンのオリーブ油を混ぜた穀物の献げ物を主に対する献げ物としてささげる。

15:5 また、焼き尽くす献げ物あるいは和解の献げ物に加え、小羊一匹につき四分の一ヒンのぶどう酒をぶどう酒の献げ物としてささげる。

15:6 雄羊の場合には、十分の二エファの上等の小麦粉に三分の一ヒンのオリーブ油を混ぜた穀物の献げ物と、

15:7 三分の一ヒンのぶどう酒をぶどう酒の献げ物として主にささげて、宥めの香りとする。

15:8 特別の誓願を果たすため、あるいは和解の献げ物として若い雄牛を焼き尽くす献げ物あるいはその他のいけにえとして主にささげるときには、

15:9 若い雄牛に加えて、十分の三エファの上等の小麦粉に二分の一ヒンのオリーブ油を混ぜた穀物の献げ物と、

15:10 二分の一ヒンのぶどう酒をぶどう酒の献げ物としてささげる。それは、燃やして主にささげる宥めの香りである。

民 28:1～15 （新共同訳）

28:1 主はモーセに仰せになった。

28:2 イスラエルの人々に命じて、こう言ひなさい。あなたたちは、わたしの食物である献げ物を、燃やしてささげる宥めの香りとして、定められた時に忠実にわたしにささげなさい。

28:3 彼らに言ひなさい。燃やして主にささげる献げ物は次のとおりである。無傷の一歳の羊二匹を、日ごとの焼き尽くす献げ物として、毎日、

28:4 朝夕に一匹ずつ、ささげなさい。

28:5 それと共に、上等の小麦粉十分の一エファに上質のオリーブを碎いて取った油四分の一ヒンを混ぜて作った穀物の献

別の誓願の供え物、あるいは自発の供え物、あるいは祝のときの供え物として、牛または羊を燔祭または犠牲としてささげ、主に香ばしいかおりとするとき、

15:4-5 その供え物を主にささげる者は、燔祭または犠牲と共に、小羊一頭ごとに、小麦粉一エバの十分の一に、油一ヒンの四分の一を混ぜたものを、素祭としてささげ、ぶどう酒一ヒンの四分の一を、灌祭としてささげなければならない。

15:6 もし、また雄羊を用いるときは、小麦粉一エバの十分の二に、油一ヒンの三分の一を混ぜたものを、素祭としてささげ、15:7 また、ぶどう酒一ヒンの三分の一を、灌祭としてささげて、主に香ばしいかおりとしなければならない。

15:8 またあなたが特別の誓願の供え物、あるいは酬恩祭を、主にささげる時、若い雄牛を、燔祭または犠牲とするならば、

15:9 小麦粉一エバの十分の三に、油一ヒンの二分の一を混ぜたものを、素祭として、若い雄牛と共にささげ、

15:10 また、ぶどう酒一ヒンの二分の一を、灌祭としてささげなければならない。これは火祭であって、主に香ばしいかおりとするものである。

民 28:1～15 （口語訳）

28:1 主はモーセに言われた、

28:2 「イスラエルの人々に命じて言ひなさい、『あなたがたは香ばしいかおりとしてわたしにささげる火祭、すなわち、わたしの供え物、わたしの食物を定めの時にわたしにささげることを怠ってはならない』。」

28:3 また彼らに言ひなさい、『あなたがたが主にささぐべき火祭はこれである。すなわち一歳の雄の全き小羊二頭を毎日ささげて常燔祭としなければならない。28:4 すなわち一頭の小羊を朝にささげ、一頭の小羊を夕にささげなければならぬ。』

28:5 また小麦粉一エバの十分の一に、碎いて取った油一ヒンの四分の一を混ぜて素祭としなければならない。

げ物をささげる。

28:6 これが日ごとの焼き尽くす献げ物であって、燃やして主にささげる宥めの香りとして、シナイ山で定められたものである。

28:7 それに添えるぶどう酒の献げ物は、羊一匹について四分の一ヒンとし、聖所で、主に対するぶどう酒の献げ物として、酒を注ぐ。

28:8 夕方ささげるもう一匹の羊の場合も、穀物の献げ物とぶどう酒の献げ物を、朝と同じようにささげ、燃やして主にささげる宥めの香りとする。

28:9 安息日には、無傷の一歳の羊二匹をささげ、上等の小麦粉十分の二エファにオリーブ油を混ぜて作った穀物の献げ物とぶどう酒の献げ物を添える。

28:10 安息日ごとにささげるべきこの焼き尽くす献げ物は、日ごとの焼き尽くす献げ物とぶどう酒の献げ物に加えるべきものである。

28:11 毎月の一日には、若い雄牛二頭、雄羊一匹、無傷の一歳の羊七匹を焼き尽くす献げ物として、主にささげる。

28:12 雄牛一頭について穀物の献げ物として、オリーブ油を混ぜた上等の小麦粉十分の三エファ、雄羊一匹について、穀物の献げ物としてオリーブ油を混ぜた上等の小麦粉十分の二エファ、

28:13 小羊一匹について、穀物の献げ物としてオリーブ油を混ぜた上等の小麦粉十分の一エファをささげる。これが焼き尽くす献げ物であって、燃やして主にささげる宥めの香りである。

28:14 それに添えるぶどう酒の献げ物は、雄牛一頭についてぶどう酒二分の一ヒン、雄羊一匹について三分の一ヒン、小羊一匹について四分の一ヒンとする。以上が一年を通じて毎月ささげる焼き尽くす献げ物である。

28:15 また、日ごとの焼き尽くす献げ物およびぶどう酒の献げ物に加えて、贖罪の献げ物として雄山羊一匹を主にささげる。

28:6 これはシナイ山で定められた常燔祭であって、主に香ばしいかおりとしてささげる火祭である。

28:7 またその灌祭は小羊一頭について一ヒンの四分の一をささげなければならぬ。すなわち聖所において主のために濃い酒をそいで灌祭としなければならない。

28:8 夕には他の一頭の小羊をささげなければならない。その素祭と灌祭とは朝のものと同じようにし、その小羊を火祭としてささげ、主に香ばしいかおりとしなければならない。

28:9 また安息日には一歳の雄の全き小羊二頭と、麦粉一エパの十分の二に油を混ぜた素祭と、その灌祭とをささげなければならない。

28:10 これは安息日ごとの燔祭であって、常燔祭とその灌祭とに加えらるべきものである。

28:11 またあなたがたは月々の第一日に燔祭を主にささげなければならない。すなわち若い雄牛二頭、雄羊一頭、一歳の雄の全き小羊七頭をささげ、

28:12 雄牛一頭には麦粉一エパの十分の三に油を混ぜたものを素祭とし、雄羊一頭には麦粉一エパの十分の二に油を混ぜたものを素祭とし、

28:13 小羊一頭には麦粉十分の一に油を混ぜたものを素祭とし、これを香ばしいかおりの燔祭として主のために火祭としなければならない。

28:14 またその灌祭は雄牛一頭についてぶどう酒一ヒンの二分の一、雄羊一頭について一ヒンの三分の一、小羊一頭について一ヒンの四分の一をささげなければならない。これは年の月々を通じて、新月ごとにささぐべき燔祭である。

28:15 また常燔祭とその灌祭とのほかに、雄やぎ一頭を罪祭として主にささげなければならない。

フィリ 1:27~29 (新共同訳)

1:27 ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。そうすれば、そちらに行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、わたしは次のことを聞けるでしょう。あなたがたは一つの靈によってしっかり立ち、心を合わせて福音の信仰のために共に戦っており、1:28 どんなことがあっても、反対者たちに脅されてたじろぐことはないのだと。このことは、反対者たちに、彼ら自身の滅びとあなたがたの救いを示すものです。これは神によることです。

1:29 つまり、あなたがたには、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです。

使徒 5:42 (新共同訳)

5:42 毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。

使徒 12:12 (新共同訳)

12:12 こう分かるとペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた。

I コリ 16:19 (新共同訳)

16:19 アジア州の諸教会があなたがたによろしくと言っています。アキラとプリスカが、その家に集まる教会の人々と共に、主においてあなたがたにくれぐれもよろしくのことです。

コロ 4:15 (新共同訳)

4:15 ラオデキヤの兄弟たち、および、ニンファと彼女の家にある教会の人々によろしく伝えてください。

フィレ 1、2 (新共同訳)

1 キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する協力者ピレモン、

2 姉妹アフィア、わたしたちの戦友アルキポ、ならびにあなたの家にある教会へ。

使徒 17:11 (新共同訳)

17:11 このユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。

ピリ 1:27~29 (口語訳)

1:27 ただ、あなたがたはキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そして、わたしが行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたが一つの靈によって堅く立ち、一つ心になって福音の信仰のために力を合わせて戦い、

1:28 かつ、何事についても、敵対する者どもにろうばいさせられないでいる様子を、聞かせてほしい。このことは、彼らには滅びのしるし、あなたがたには救のしるしであって、それは神から來るのである。

1:29 あなたがたはキリストのために、ただ彼を信じることだけではなく、彼のために苦しむことをも賜わっている。

使徒 5:42 (口語訳)

5:42 そして、毎日、宮や家で、イエスがキリストであることを、引きつづき教えたり宣べ伝えたりした。

使徒 12:12 (口語訳)

12:12 ペトロはこうとわかってから、マルコと呼ばれているヨハネの母マリヤの家に行った。その家には大ぜいの人が集まって祈っていた。

I コリ 16:19 (口語訳)

16:19 アジヤの諸教会から、あなたがたによろしく。アクラとプリスカとその家の教会から、主にあって心からよろしく。

コロ 4:15 (口語訳)

4:15 ラオデキヤの兄弟たちに、またヌンバとその家にある教会とに、よろしく。

ピレ 1、2 (口語訳)

1 キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する同労者ピレモン、

2 姉妹アピヤ、わたしたちの戦友アルキポ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

使徒 17:11 (口語訳)

17:11 ここにいるユダヤ人はテサロニケの者たちよりも素直であって、心から教を受けいれ、果してそのとおりかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていた。

使徒 18:26 (新共同訳)

18:26 このアポロが会堂で大胆に教え始めた。これを聞いたプリスキラとアキラは、彼を招いて、もっと正確に神の道を説明した。

I ペテ 3:15 (新共同訳)

3:15 心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。

使徒 18:26 (口語訳)

18:26 彼は会堂で大胆に語り始めた。それをプリスキラとアクラとが聞いて、彼を招き入れ、さらに詳しく神の道を解き聞かせた。

I ペテ 3:15 (口語訳)

3:15 ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。

水曜日 1月 28 日 練達ぶり (ピリ 2:22、口語訳 参照)

テモテがこの手紙の共同差出人であることについては、すでに言及されています(フィリ[ピリ]1:1)。ここでパウロは、テモテが共労者としていかに貴重な存在であるかを詳しく述べ始めます。テモテは福音宣教者(口語訳:伝道者)(IIテモ4:5)と呼ばれており、パウロは彼をマケドニア州(Iテサ3:2、使徒18:5、19:22と比較)に、また何度かコリント(Iコリ4:17、16:10)に派遣しました。テモテは以前、パウロやシラスと共にコリントで働いたことがあります(Iテサ1:1、IIテサ1:1)、のちに、エフェソ(エペソ)(Iテモ1:2、3、使徒19:22と比較)でも働きました。パウロはテモテを、「同じ思いを抱いて……いる者」(フィリ[ピリ]2:20)と呼んでいます。このギリシア語(文字どおりの意味は、「魂が等しい」)は、キリストへの献身、福音を広めるための精力的な努力、フィリピ(ピリピ)の信徒への特別な関心など多くの点で、彼がパウロに似ていたことを示唆しています。

問5 なぜパウロはここで、テモテについてこれほど肯定的に、これほど長く語っているのだと思いますか(フィリ[ピリ]2:19~23 参照)。パウロはテモテについて、ほかに何と言っていますか(Iコリ4:17、IIテモ1:5 参照)。

パウロが言及したテモテのもう一つの資質は、彼の「練達ぶり」(ピリ2:22、口語訳)です。このギリシア語は、試練によって徹底的に試され(ロマ5:4)、その品性と奉仕が本物であることが証明された人(IIコリ2:9、9:13)をあらわしています。パウロは、テモテがそのような人であることを知っていました。なぜなら、福音を広めるために共に働いた多くの機会を通して、それが実証されるのを見てきたからです。

人生の困難な経験こそが私たちの品性を試し、私たちの内面がどのようなものであるかを明らかにします。エレン・ホワイトは、次のように言っています。「人生は訓練の場である。……気性を試すような挑発があるだろう。そして、正しい精神でそれに対処することによって、クリスチャンの品格が養われる。もし不当な扱いや

侮辱を柔軟に耐え、侮辱的な言葉に穏やかに答え、抑圧的な行為に親切で応じるなら、それは、キリストの御靈が心に宿っている証拠である」(「教会への証」第5巻344ページ、英文)。彼女はさらに、こうも述べています。「私たちが負うよう求められている困難や迷惑」を「よく耐えれば、キリストのような品性が育まれ、クリスチヤンを世俗の人間から区別する」(同)。

【参考】—Testimonies for the Church, vol. 5, p. 344.

“Life is disciplinary. . . There will be provocations to test the temper; and it is by meeting these in a right spirit that the Christian graces are developed. If injuries and insults are meekly borne, if insulting words are responded to by gentle answers, and oppressive acts by kindness, this is evidence that the Spirit of Christ dwells in the heart.”. . . . “the hardships and annoyances that we are called to bear” are “well endured, they develop the Christlike in the character and distinguish the Christian from the worldling.”

最近直面した挑発や迷惑に、あなたは「柔軟に耐え」ことができましたか。それらの経験を通して、より自制心を持つために、何ができるでしょうか。

【参考】英語テキストにある文

Think about the provocations, hardships, and annoyances you have faced recently. Have these been “meekly borne” and “well endured”? What can you do to enable these experiences to help make you more disciplined?

最近直面した挑発や困難、迷惑について考えてみてください。それらは「柔軟に耐え」「よく耐えた」と言えるものでしたか。これらの経験を通して自分をより自制心のある人間に成長させるために、あなたには何ができるでしょうか。

36

I フィリ 1:1 (新共同訳)

1:1 キリスト・イエスの僕であるパウロとテモテから、フィリピにいて、キリスト・イエスに結ばれているすべての聖なる者たち、ならびに監督たちと奉仕者たちへ。

II テモ 4:5 (新共同訳)

4:5 しかしあなたは、どんな場合にも身を慎み、苦しみを耐え忍び、福音宣教者の仕事に励み、自分の務めを果たしなさい。

I テサ 3:2 (新共同訳)

3:2 わたしたちの兄弟で、キリストの福音のために働く神の協力者テモテをそちらに派遣しました。それは、あなたがたを励まして、信仰を強め、

使徒 18:5 (新共同訳)

18:5 シラスとテモテがマケドニア州からやって来ると、パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対してメシアは

ピリ 1:1 (口語訳)

1:1 キリスト・イエスの僕たち、パウロとテモテから、ピリピにいる、キリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、ならびに監督たちと執事たちへ。

II テモ 4:5 (口語訳)

4:5 しかし、あなたは、何事にも慎み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。

I テサ 3:2 (口語訳)

3:2 わたしたちの兄弟で、キリストの福音における神の同労者テモテをつかわした。それは、あなたがたの信仰を強め、

使徒 18:5 (口語訳)

18:5 シラスとテモテが、マケドニヤから下ってきてからは、パウロは御言を伝えることに専念し、イエスがキリストであ

イエスであると力強く証しした。

使徒 19:22 (新共同訳)

19:22 そして、自分に仕えている者の中から、テモテとエラストの二人をマケドニア州に送り出し、彼自身はしばらくアジア州にとどまっていた。

Iコリ 4:17 (新共同訳)

4:17 テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。彼は、わたしの愛する子で、主において忠実な者であり、至るところのすべての教会でわたしが教えているとおりに、キリスト・イエスに結ばれたわたしの生き方を、あなたがたに思い起させることでしょう。

Iコリ 16:10 (新共同訳)

16:10 テモテがそちらに着いたら、あなたがたのところで心配なく過ごせるようお世話ください。わたしと同様、彼は主の仕事をしているのです。

Iテサ 1:1 (新共同訳)

1:1 パウロ、シルワノ、テモテから、父である神と主イエス・キリストとに結ばれているテサロニケの教会へ。恵みと平和が、あなたがたにあるように。

IIテサ 1:1 (新共同訳)

1:1 パウロ、シルワノ、テモテから、わたしたちの父である神と主イエス・キリストに結ばれているテサロニケの教会へ。

Iテモ 1:2、3 (新共同訳)

1:2 信仰によるまことの子テモテへ。父である神とわたしたちの主キリスト・イエスからの恵み、憐れみ、そして平和があるように。

1:3 マケドニア州に出発するときに頼んでおいたように、あなたはエフェソにとどまって、ある人々に命じなさい。異なる教えを説いたり、

使徒 19:22 (新共同訳)

19:22 そして、自分に仕えている者の中から、テモテとエラストの二人をマケドニア州に送り出し、彼自身はしばらくアジア州にとどまっていた。

フィリ 2:19～23 (新共同訳)

2:19 さて、わたしはあなたがたの様子を知って力づけられたいので、間もなくテモテをそちらに遣わすことを、主イエスによって希望しています。

ることを、ユダヤ人たちに力強くあかした。

使徒 19:22 (口語訳)

19:22 そこで、自分に仕えている者の中から、テモテとエラストとのふたりを、まずマケドニアに送り出し、パウロ自身は、なおしばらくアジアにとどまったく。

Iコリ 4:17 (口語訳)

4:17 このことのために、わたしは主にあって愛する忠実なわたしの子テモテを、あなたがたの所につかわした。彼は、キリスト・イエスにおけるわたしの生活のしかたを、わたしが至る所の教会で教えているとおりに、あなたがたに思い起させてくれるであろう。

Iコリ 16:10 (口語訳)

16:10 もしテモテが着いたら、あなたがたの所で不安なしに過ごせるようにしてあげてほしい。彼はわたしと同様に、主のご用にあたっているのだから。

Iテサ 1:1 (口語訳)

1:1 パウロとシルワノとテモテから、父なる神と主イエス・キリストとにあるテサロニケ人たちの教会へ。恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

IIテサ 1:1 (口語訳)

1:1 パウロとシルワノとテモテから、わたしたちの父なる神と主イエス・キリストとにあるテサロニケ人たちの教会へ。

Iテモ 1:2、3 (口語訳)

1:2 信仰によるわたしの真実な子テモテへ。父なる神とわたしたちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安とが、あなたににあるように。

1:3 わたしがマケドニアに向かって出発する際、頼んでおいたように、あなたはエペソにとどまっていて、ある人々に、違った教を説くことをせず、

使徒 19:22 (口語訳)

19:22 そこで、自分に仕えている者の中から、テモテとエラストとのふたりを、まずマケドニアに送り出し、パウロ自身は、なおしばらくアジアにとどまった。

ピリ 2:19～23 (口語訳)

2:19 さて、わたしは、まもなくテモテをあなたがたのところに送りたいと、主イエスにあって願っている。それは、あなたがたの様子を知って、わたしも力づけ

2:20 テモテのようにわたしと同じ思いを抱いて、親身になってあなたがたのことを見にかけている者はほかにいないのです。

2:21 他の人は皆、イエス・キリストのことではなく、自分のことを追い求めています。

2:22 テモテが確かな人物であることはあなたがたが認めるところであり、息子が父に仕えるように、彼はわたしと共に福音に仕えました。

2:23 そこで、わたしは自分のことの見通しがつきしだいすぐ、テモテを送りたいと願っています。

Iコリ4:17 (新共同訳)

4:17 テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。彼は、わたしの愛する子で、主において忠実な者であり、至るところのすべての教会でわたしが教えているとおりに、キリスト・イエスに結ばれたわたしの生き方を、あなたがたに思い起こさせることでしょう。

IIテモ1:5 (新共同訳)

1:5 そして、あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。

ロマ5:4 (新共同訳)

5:4 忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。

IIコリ2:9 (新共同訳)

2:9 わたしが前に手紙を書いたのも、あなたがたが万事について従順であるかどうかを試すためでした。

IIコリ9:13 (新共同訳)

9:13 この奉仕の業が実際に行われた結果として、彼らは、あなたがたがキリストの福音を従順に公言していること、また、自分たちや他のすべての人々に惜しまず施しを分けてくれることで、神をほめたたえます。

られたいからである。

2:20 テモテのような心で、親身になってあなたがたのことを心配している者は、ほかにひとりもない。

2:21 人はみな、自分のことを求めるだけで、キリスト・イエスのことは求めていない。

2:22 しかし、テモテの鍊達ぶりは、あなたがたの知っているとおりである。すなわち、子が父に対するようにして、わたしと一緒に福音に仕えてきたのである。

2:23 そこで、この人を、わたしの成行きがわかりしだい、すぐにでも、そちらへ送りたいと願っている。

Iコリ4:17 (口語訳)

4:17 このことのために、わたしは主にあって愛する忠実なわたしの子テモテを、あなたがたの所につかわした。彼は、キリスト・イエスにおけるわたしの生活のしかたを、わたしが至る所の教会で教えているとおりに、あなたがたに思い起させてくれるであろう。

IIテモ1:5 (口語訳)

1:5 また、あなたがいだいている偽りのない信仰を思い起している。この信仰は、まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケとに宿ったものであったが、今あなたにも宿っていると、わたしは確信している。

ロマ5:4 (口語訳)

5:4 忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを、知っているからである。

IIコリ2:9 (口語訳)

2:9 わたしが書きおくったのも、あなたがたがすべての事について従順であるかどうかを、ためすためにほかならなかつた。

IIコリ9:13 (口語訳)

9:13 すなわち、この援助を行った結果として、あなたがたがキリストの福音の告白に対して従順であることや、彼らにも、すべての人にも、惜しみなく施しをしていることがわかつて、彼らは神に栄光を帰し、

木曜日 1月 29 日 「彼のような人々を敬いなさい」(フィリ[ピリ]2:29 参照)

問6 フィリピ(ピリピ)2:25~30を読んでください。パウロはエパフロディト(エパフロデト)を、どのように説明していますか。このクリスチヤンの働き人のどのような具体的な態度や行動が、彼の品性を明らかにしていますか。

エパフロディト(エパフロデト)は、この手紙の中でしか言及されていませんが、そのわずかな記述から、彼についてかなり多くのことがわかります。名前('アフロディーテ崇拜'の意)から判断するに、彼は異教徒から改宗した人物です。彼が「協力者」〔口語訳「同労者」〕と呼ばれているのは、宣教に積極的で、おそらくフィリピ(ピリピ)でパウロと一緒に働いていたことを示唆しています。「戦友」であるというのは(フィリ[ピリ]1:27と比較)、福音を広める際にエパフロディト(エパフロデト)が紛争に直面し、命を危険にさらすことさえいとわなかつたこと(同2:30)を指していると考えられます。

フィリピ(ピリピ)の教会によって任命された「使者」(ギリシア語で「アポストロス!')として、エパフロディト(エパフロデト)は獄中のパウロに仕え、彼が必要とするさまざまな世話をするために遣わされました(フィリ[ピリ]2:25)。彼は、フィリピ(ピリピ)の信徒からパウロのために金銭的な贈り物を託された人物であり(同4:18)、これらの献金は極めて重要でした。なぜなら、ローマの囚人が必要とする食料、衣服、寝具、そのほかの必需品は、すべて自費で購入するか、家族や友人が持つて来なければならなかったからです(使徒24:23と比較)。ローマでの二度目の投獄の終わり頃、パウロはテモテに、トロアスに置いて来た「外套を持って」〔口語訳「上着を持つて」〕、「冬になる前にぜひ来てください」〔口語訳「冬になる前に、急いできてほしい」〕(IIテモ4:13, 21)と頼んでいます。石造りの冷たい独房の中で、パウロはこの厚手の毛織の外套を必要としていたようです。この手紙をフィリピ(ピリピ)に持ち帰るよう託されたのも、エパフロディト(エパフロデト)でした(『希望への光』1538ページ、『患難から栄光へ』第45章参照)。

おそらくフィリピ(ピリピ)での問題(第4課参照)のため、パウロは予想よりも早くエパフロディト(エパフロデト)を「帰さねばならないと考え」〔口語訳「送り返すことが必要だと思って」、(フィリ[ピリ]2:25)〕、フィリピ(ピリピ)の信徒に、「主に結ばれている者として大いに歓迎してください」〔口語訳「大いに喜んで、主にあって彼を迎えてほしい」〕(フィリ[ピリ]2:29)と要請しています。パウロは、獄中の自分の状況を彼らに心配させたくないと思うとともに、エパフロディト(エパフロデト)のことを、クリスチヤンが高く尊敬すべき人物であると強調しています。その評価は、富や社会的地位のゆえではなく、イエスの模範に従う犠牲の精神のゆえです(同2:6~11, 29, 30、ルカ22:25~27と比較)。「尊敬」や「栄誉」を意味するこのギリシア語は、新約聖書の中で数回しか出てきません。百人隊長に「重んじられている」部下〔口語訳「頼みにして

いた」僕](ルカ7:2)や、「尊い」隅の親石(Iペト2:6、協会共同訳)[新共同訳「尊いかなめ石」、口語訳「尊い石、隅のかしら石」]であるイエス(Iペト[ペテ]2:4、6)などです。その一例になっているのですからエパフロディト(エパフロデト)は、確かに忠実な人であつたに違ひありません。

37

フィリ 2:25~30 (新共同訳)

2:25 ところでわたしは、エパフロディトをそちらに帰さねばならないと考えています。彼はわたしの兄弟、協力者、戦友であり、また、あなたがたの使者として、わたしの窮乏のとき奉仕者となってくれましたが、

2:26 しきりにあなたがた一同と会いたがっており、自分の病気があなたがたに知られたことを心苦しく思っているからです。

2:27 実際、彼はひん死の重病にかかりましたが、神は彼を憐れんでくださいました。彼だけでなく、わたしをも憐れんで、悲しみを重ねずに済むようにしてくださいました。

2:28 そういうわけで、大急ぎで彼を送ります。あなたがたは再会を喜ぶでしょうし、わたしも悲しみが和らぐでしょう。

2:29 だから、主に結ばれている者として大いに歓迎してください。そして、彼のような人々を敬いなさい。

2:30 わたしに奉仕することであなたがたのできない分を果たそうと、彼はキリストの業に命をかけ、死ぬほどの目に遭ったのです。

フィリ 1:27 (新共同訳)

1:27 ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。そうすれば、そちらに行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、わたしは次のことを聞けるでしょう。あなたがたは一つの靈によってしっかりと立ち、心を合わせて福音の信仰のために共に戦つてお

フィリ 4:18 (新共同訳)

4:18 わたしはあらゆるものを受けており、豊かになっています。そちらからの贈り物をエパフロディトから受け取って満ち足りています。それは香ばしい香りであり、神が喜んで受けてくださるいけにえです。

ピリ 2:25~30 (口語訳)

2:25 しかし、さしあたり、わたしの同労者で戦友である兄弟、また、あなたがたの使者としてわたしの窮乏を補ってくれたエパフロデトを、あなたがたのもとに送り返すことが必要だと思っている。

2:26 彼は、あなたがた一同にしきりに会いたがっているからである。その上、自分の病気のことがあなたがたに聞えたので、彼は心苦しく思っている。

2:27 彼は実に、ひん死の病気にかかったが、神は彼をあわれんで下さった。彼ばかりではなく、わたしをもあわれんで下さったので、わたしは悲しみに悲しみを重ねないですんだのである。

2:28 そこで、大急ぎで彼を送り返す。これで、あなたがたは彼と再び会って喜び、わたしもまた、心配を和らげることができよう。

2:29 こういうわけだから、大いに喜んで、主にあって彼を迎えてほしい。また、こうした人々は尊重せねばならない。

2:30 彼は、わたしに対してあなたがたが奉仕できなかつた分を補おうとして、キリストのわざのために命をかけ、死ぬばかりになつたのである。

ピリ 1:27 (口語訳)

1:27 ただ、あなたがたはキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そして、わたしが行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたが一つの靈によって堅く立ち、一つ心になって福音の信仰のために力を合わせて戦い、

ピリ 4:18 (口語訳)

4:18 わたしは、すべての物を受けてあり余るほどである。エパフロデトから、あなたがたの贈り物をいただきて、飽き足りている。それは、かんばしいかおりであり、神の喜んで受けて下さる供え物である。

使徒 24:23 (新共同訳)

24:23 そして、パウロを監禁するように、百人隊長に命じた。ただし、自由がある程度与え、友人たちが彼の世話をするのを妨げないようにさせた。

II テモ 4:13、21 (新共同訳)

4:13 あなたが来るときには、わたしがトロアスのカルポのところに置いてきた外套を持って来てください。また書物、特に羊皮紙のものを持って来てください。

4:21 冬になる前にぜひ来てください。エウブロ、プデンス、リノス、クラウディア、およびすべての兄弟があなたによろしくと言っています。

フィリ 2:6~11 (新共同訳)

2:6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようと思わず、

2:7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、

2:8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

2:9 このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

2:10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、

2:11 すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

フィリ 2:29、30 (新共同訳)

2:29 だから、主に結ばれている者として大いに歓迎してください。そして、彼のような人々を敬いなさい。

2:30 わたしに奉仕することであなたがたのできない分を果たそうと、彼はキリストの業に命をかけ、死ぬほどの目に遭ったのです。

ルカ 22:25~27 (新共同訳)

22:25 そこで、イエスは言われた。「異邦人の間では、王が民を支配し、民の上に権力を振るう者が守護者と呼ばれている。

22:26 しかし、あなたがたはそれではない。あなたがたの中でいちばん偉い

使徒 24:23 (口語訳)

24:23 そして百卒長に、パウロを監禁するように、しかし彼を寛大に取り扱い、友人らが世話をするのを止めないようにと、命じた。

II テモ 4:13、21 (口語訳)

4:13 あなたが来るときに、トロアスのカルポの所に残しておいた上着を持ってきてほしい。また書物も、特に、羊皮紙のを持ってきてもらいたい。

4:21 冬になる前に、急いできてほしい。ユブロ、プデンス、リノス、クラウディアならびにすべての兄弟たちから、あなたによろしく。

ピリ 2:6~11 (口語訳)

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるもののがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

ピリ 2:29、30 (口語訳)

2:29 こういうわけだから、大いに喜んで、主にあって彼を迎えてほしい。また、こうした人々は尊重せねばならない。

2:30 彼は、わたしに対してあなたがたが奉仕のできなかつた分を補おうとして、キリストのわざのために命をかけ、死ぬばかりになつたのである。

ルカ 22:25~27 (口語訳)

22:25 そこでイエスが言われた、「異邦の王たちはその民の上に君臨し、また、権力をふるっている者たちは恩人と呼ばれる。

22:26 しかし、あなたがたは、そうであつてはならない。かえって、あなたがたの

人は、いちばん若い者のようにになり、上に立つ人は、仕える者になりなさい。

22:27 食事の席に着く人と給仕する者は、どちらが偉いか。食事の席に着く人ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。

ルカ 7:2 (新共同訳)

7:2 ところで、ある百人隊長に重んじられている部下が、病気で死にかかっていた。

I ペト 2:4、6 (協会共同訳)

2:4 主のもとに来なさい。主は、人々からは捨てられましたが、神によって選ばれた、尊い、生ける石です。

2:6 聖書にこう書いてあるからです。／「見よ、私は選ばれた尊い隅の親石を／シオンに置く。／これを信じる者は、決して恥を受けることはない。」

I ペト 2:4、6 (新共同訳)

2:4 この主のもとに来なさい。主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとっては選ばれた、尊い、生きた石なのです。

2:6 聖書にこう書いてあるからです。「見よ、わたしは、選ばれた尊いかなめ石を、シオンに置く。これを信じる者は、決して失望することはない。」

中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者になるべきである。

22:27 食卓につく人と給仕する者と、どちらが偉いのか。食卓につく人の方ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。

ルカ 7:2 (口語訳)

7:2 ところが、ある百卒長の頼みについていた僕が、病気になって死にかかっていた。

I ペテ 2:4、6 (口語訳)

2:4 主は、人には捨てられたが、神にとっては選ばれた尊い生ける石である。

2:6 聖書にこう書いてある、「見よ、わたしはシオンに、選ばれた尊い石、隅のかしら石を置く。それにより頼む者は、決して、失望に終ることがない。」

金曜日 1月 30日 さらなる研究

「キリストの一番近くに立つ者は、この地上においてキリストの自己犠牲的な愛、すなわち、『高ぶらない、誇らない、……自分の利益を求めるない、いらだたない、恨みをいだかない』ところの愛、また主の心を動かしたように、人類を救うために死に至るまで、すべてを献げ、生き、働き、犠牲を払うように弟子の心を動かすところの愛、——そうした愛の精神を最も深く飲んだ者である(Iコリント13:4、5)。この精神はパウロの一生にあらわされた。パウロは、『わたしにとっては、生きることはキリストである』と言った。なぜなら彼の一生は人々にキリストをあらわしたからである。そして、『死ぬことは益である』——キリストにとって益である。死そのものは主の恵みの力をあらわし、魂を主のもとに集めるであろう。『生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられる』と、彼は言った(ピリピ1:21、20)」(『希望への光』958ページ、『各時代の希望』第60章)。

「すべての魂に試練が訪れる時は、そう遠くない。獣の刻印が私たちに強制される。世の要求に一步ずつ屈し、世の慣習に従ってきた者たちは、嘲笑、侮辱、投獄

の脅威、死に身を委ねるよりも、権力に屈することのほうが難しいことではないと思うだろう。……

多くの偽りの兄弟たちが真実の兄弟たちから区別されるとき、隠されていた者たちが明らかにされ、ホサナの声とともにキリストの旗の下に集う。臆病で自分に自信がなかった者たちも、キリストとその真理を公然と支持するだろう。教会の中で最も弱く、ためらっている人たちも、ダビデのように進んで行動し、果敢に挑戦するだろう。夜の闇が深ければ深いほど、星は一層輝きを増すように、神の民は輝きを増す。サタンは忠実な人々をひどく苦しめるだろうが、イエスの御名において、彼らは勝ちえて余りある』(『教会への証』第5巻 81, 82 ページ、英文)

【参考】——Ellen G. White, Testimonies for the Church, vol. 5, pp. 81, 82

“The time is not far distant when the test will come to every soul. The mark of the beast will be urged upon us. Those who have step by step yielded to worldly demands and conformed to worldly customs will not find it a hard matter to yield to the powers that be, rather than subject themselves to derision, insult, threatened imprisonment, and death. . . .

“When multitudes of false brethren are distinguished from the true, then the hidden ones will be revealed to view, and with hosannas range under the banner of Christ. Those who have been timid and self-distrustful will declare themselves openly for Christ and His truth. The most weak and hesitating in the church will be as David—willing to do and dare. The deeper the night for God’s people, the more brilliant the stars. Satan will sorely harass the faithful; but, in the name of Jesus, they will come off more than conquerors.

話し合いのための質問

- ① 金曜日の引用文の中の、「世の要求に一步ずつ屈し、世の慣習に従ってきた者たち」に関する警告について、考えてください。それにはどのようなことが含まれるでしょうか。これは個人だけでなく、教会全体に対してもどう当てはまるか、話し合ってください。
- ② 神は、「わたしを重んじる者をわたしは重んじ(る)」〔口語訳「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊(ぶ)」〕(サム上 2:30)と言われます。私たちはいかにして神を重んじることができるものでしょうか。それは、「(神の)栄光をたたえ(る)」〔口語訳「神に栄光を帰(す)」〕(黙 14:7)ことと同じでしょうか。
- ③ 律法主義のわなに陥ることなく、自分自身の救いを実現するには、どうしたらよいのでしょうか。

I コリ 13:4, 5 (新共同訳)

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

フィリ 1:20, 21 (新共同訳)

1:20 そして、どんなことにも恥をかかず、これまでのよう今も、生きるにも

I コリ 13:4, 5 (口語訳)

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいたかない。

ピリ 1:20, 21 (口語訳)

1:20 そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあ

死ぬにも、わたしの身によってキリストが公然とあがめられるようにと切に願い、希望しています。

1:21 わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。

サム上 2:30 (新共同訳)

2:30 それゆえ、イスラエルの神、主は言われる。わたしは確かに、あなたの家とあなたの先祖の家はとこしえにわたしの前に歩む、と約束した。主は言われる。だが、今は決してそうはさせない。わたしを重んずる者をわたしは重んじ、わたしを侮る者をわたしは軽んずる。

黙 14:7 (新共同訳)

14:7 大声で言った。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい。」

とっても恥じることなく、かえって、いつものように今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。

1:21 わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。

サム上 2:30 (口語訳)

2:30 それゆえイスラエルの神、主は仰せられる、『わたしはかつて、「あなたの家とあなたの父の家とは、永久にわたしの前に歩むであろう」と言った』。しかし今、主は仰せられる、『決してそうはしない。わたしを尊ぶ者を、わたしは尊び、わたしを卑しめる者は、軽んぜられるであろう。

黙 14:7 (口語訳)

14:7 大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。